

2021年度（令和3年度）第1回常任幹事会（新旧合同常任幹事会）

日時： 2021年3月12日（金） 13:00~14:50

会場： Cisco Webex によるオンライン会議

出席者（敬称略）： 石切山 一彦（(株)東レリサーチセンター）、石濱 泰（京都大学薬学研究科）、岩月 聡史（甲南大学理工学部）、大塚 利行（神戸大学理学研究科）、大城 敬人（大阪大学産業科学研究所）、岡本 行広（大阪大学基礎工学研究科）、糟野 潤（龍谷大学先端理工学部）、北隅 優希（京都大学農学研究科）、北山 紗織（紀本電子工業(株)）、久保 拓也（京都大学工学研究科）、小池 亮（花王(株)）、末吉 健志（大阪府立大学工学研究科）、鈴木茂生（近畿大学薬学部）、鈴木 雅登（兵庫県立大学物質理学研究科）、高原 晃里（(株)リガク）、田中 陽（理化学研究所）、茶山 健二（甲南大学理工学部）、永井 秀典（産業技術総合研究所）、中田 靖（(株)堀場テクノサービス）、長谷川 健（京都大学化学研究所）、久本 秀明（大阪府立大学工学研究科）、村松 康司（兵庫県立大学工学研究科）、森田 成昭（大阪電気通信大学工学部）、安川 智之（兵庫県立大学物質理学研究科）、山口 英一（(株)日立ハイテクサイエンス）、山本 佐知雄（近畿大学薬学部） 計 26 名

1. 前回議事録の確認

資料 No.1に基づき、末吉庶務幹事より2020年度第4回常任幹事会および第3回幹事会議事録の確認が求められた。異論・修正は無く、議事録が承認された。

2. 新旧常任幹事およびWG担当案の紹介

村松新支部長より挨拶と自己紹介がなされた。その後、資料 No.2の順で、参加した常任幹事それぞれの自己紹介が行われた。また、2021年度新参与および新幹事が村松支部長によって紹介された。他、「ぶんせき」誌の支部推薦編集委員として中原佳夫氏が紹介された。各WGの紹介は配付資料通りということで割愛された。

3. 本部理事会報告

資料 No.3に基づき、石濱本部副会長より本部理事会の報告がなされた。まず、本部役員および支部役員が紹介された。次いで本部のキャッシュフローについて、基金の取り崩しがあったことが説明された。続いて会員数の推移について説明があり、年間200名ずつの減少は、会員の高年齢化に伴うものであり、10年後の会員数は3000人程度と予測されている旨が説明された。また、第71年会は、岡山にて金田隆氏（岡山大理）を実行委員長として開催予定であることが説明された。他、学術団体でもハラスメント対策のルール制定が必要になったために、ハラスメント防止方針が宣言されたことが紹介された。現在、諸事情により本部事務局の活動に遅延が生じており、2020年度決算報告を行う総会の開催が6月にずれ込む可能性が説明された。



4. 2020年度報告

4-1. 2020年度 近畿支部事業報告

資料No. 4に基づいて、永井前庶務幹事により2020年度の支部事業の報告がなされた。新型コロナウイルスの影響のため、常任幹事会、幹事会はチャット会議、メール会議、テレビ会議等で実施され、ぶんせき講習会(基礎編その1)はオンライン開催となったが、支部行事の多くが中止となったことが報告された。

4-2. 2020 年度 近畿支部 会計決算報告

資料No. 5に基づいて、責任者の小池会計幹事より2020年度の支部会計決算報告がなされた。経常収益においては、70年会分の預かり金が組み込まれていること、講習会の中止により収益が減少したこと、新たに雑収入として組み込まれた支部懇親会費も大幅に減少したことが説明された。経常費用においては、会議費、支部懇親会費、会場費、旅費交通費、謝金大幅に減少したことが説明された。コロナ禍の影響による収入減よりもさらに支出が減少したため、最終的には85万円ほどの預金増となったことが報告された。

5. 2021年度予定

5-1. 支部役員について

資料No. 6に基づいて、村松支部長により新しい支部役員の紹介がなされた。大内幹雄氏(兵庫県大)は退職予定であるため、2021年度支部役員依頼を辞退されたことが報告された。また、糟野委員より龍谷大学の改組に伴う所属名変更(理工学部から先端理工学部へ)が報告された。

5-2. 行事予定について

5-2-1. 常任幹事会、幹事会

資料No. 7に基づいて、末吉庶務幹事より2021年度近畿支部事業計画が説明された。村松支部長より、第2回常任幹事会、幹事会、支部講演会(4/9(金))については、オンライン開催が濃厚であることが説明され、最終的に本常任幹事会において承認された。それ以降の行事についても、状況によっては対面・オンライン開催の判断を行うこと、年会についてはオンライン開催が決定したことが説明された。また、基本的なスケジュールは例年を踏襲する予定であることが説明された。

田中委員より、常任幹事会等のハイブリット開催の可能性に関して質問がなされた。それに対して、末吉庶務幹事より、状況次第でハイブリット開催はあり得るとの回答がなされた。また、先に報告された2020年度支部会計資料からも、会議のオンライン化による経費削減効果が極めて大きいことから、会計状況次第でオンライン会議の継続についても検討を要するとの解答があった。

5-2-2 ぶんせき講習会

資料No. 8に基づいて、森田委員長よりぶんせき講習会の予定についての説明がなされた。基礎編その1はオンライン開催が決定し、講師4名が刷新されたこと、参加費は2020年度のオンライン開催と同様とすることが報告された。ぶんせき誌での会告は3月号掲載予定、現時点での申し込みは1名であることが説明された。また、研究室等での新人への参加案内が依頼された。基礎編その2、実践編は会場利用および講師の確定ができないため中止予定であることが説明された。中止に対して村松先生は賛同の意を表明、反対意見は上がらなかった。最終判断は幹事会に移ることが決まった。また、発展編については、現在詳細を検討中であるとの説明があった。他、2020年度の講習会における決算報告がなされた。

5-2-3 支部講演会WG

資料No. 9に基づいて、前責任者の鈴木委員より、2020年度の報告として4月開催予定だった支部講演会が12月のオンライン開催となったことが報告された。また、2021年度4月に予定されている以下の支部講演2件について、常任幹事会および幹事会のオンライン開催を受け、実施方法について議論がなされた。

- ・横井邦彦氏(大阪教育大)「分析化学と科学教育にご縁をいただいた40年」

- ・萩森政頼氏(武庫川女子大薬)「生体微量元素の可視化を目的とした蛍光プローブの開発」

鈴木委員より、横井氏は退職されているため対面がよいのではないかと、一方で萩森氏をできるだけ早く近畿支部に紹介したいとの考えが説明された。永井委員より、大阪科学技術センター7階の従来使用している会議室ではパーソナルスペースの確保が難しく、より大きな部屋の確保が必要となるために、対面開催時には部屋利用スケジュール確認が必要になる点が指摘された。

議論の結果、講演者の意見も伺う必要があるものの、4月の常任幹事会、幹事会に続く第1回支部講演会において萩森氏にはオンラインでの講演をお願いし、横井氏の講演は夏以降に変更する方針が決まった。

また、鈴木委員より、第2回(7/16)および第3回(12/3)支部講演会講演候補者について、推薦および連絡の依頼があった。

5-2-4 提案公募型セミナーWG

資料No. 10に基づき、責任者の北山委員より、本年度もオンライン開催を基本とする点を明記した上で公募開始していることが説明された。

末吉庶務幹事より、近畿支部のWebexアカウントに関しても公募に追記してはどうか、という意見が上げられた。

5-2-5 ホームページ&ニュースWG

資料No. 11に基づき、責任者の田中委員より、ぶんきんニュース第50号発行の報告がなさ

れた。また、コロナ禍のために支部行事の多くが中止となり記事が少ないこと、記事の提案や次号以降の発行時期に関する検討が必要であることが報告された。企業バナーに関しては、例年通り募集することが説明された。

5-2-6 若手セミナーWG

資料No.12に基づき、責任者の岡本委員より、日程が7/31(土)、8/1(日)、会場が大阪大学豊中キャンパス南部陽一郎ホールで確定したこと、宿泊無しで開催すること、現時点では対面開催を予定していることがそれぞれ報告された。会場のキャンセル料が不要であるため、オンライン変更も可能な形で準備を進めているとの説明があった。講師としては既に承諾済みの村松康司支部長(兵庫県立大)、永井秀典氏(産総研)、渡會仁氏(阪大名誉教授)、高原晃里氏((株)リガク)の他、企業講演を2件程度依頼中であるとの報告があった。また、分析化学会以外の方にも参加もしくは講演をいただきたいとの考えが説明された。他、企業広告を集めており、既に申込があることが報告された。また、学会員と会員外の価格差を付けるとともに学生向けの学会入会広告を作成し、分析化学会への入会案内を勧めていることも説明された。

5-2-7 2021 年度 近畿支部予算案

資料 No.13に基づいて、責任者の小池会計幹事より2021年度の支部予算案が説明された。内容は前回の常任幹事会および幹事会で承認されたままである旨が説明された。また、夏期セミナーの規模が縮小されていること、雑収入は懇親会費に相当することが説明された。村松支部長より、講習会の中止が決まったので予算に反映させるべきではないかとの指摘があった。会議後、本部に提出済みの予算であるため変更はせず、決算にて対応することになる点が確認された。

5-2-8. 2021 年度 役員選考委員選出の件

資料 No.14に基づき、末吉庶務幹事より役員選出委員の推薦を募集した旨が報告された。募集結果に関しては、次回の常任幹事会までにメール会議にて審議することが説明された。また、審議の結果、[理]分野の新任委員候補として〇〇氏()、[農]分野の新任委員候補として〇〇氏()、[業界]分野の新任委員候補として〇〇氏()がそれぞれ選出された。各候補に選出結果を基に依頼した結果、それぞれ内諾を得た。

5-2-9. 日本分析化学会 第70 年会関連

資料 No.15 に基づき、大塚実行委員長より、日本分析化学会第70年会はオンライン開催とする旨が報告された。また、各種締め切りが設定されたことが説明された。予算案について、支出における予備費は黒字に相当するとの説明があった。ただし、オンライン開催が外部委託になった場合この予算案通りにならない可能性がある旨の言及があった。実行委員

については、オンライン開催用に再編すると説明された。また、本部事務局の年会担当者が退職されたために開催に関する手続き等が手探りとなっていることが報告され、過去の実行委員経験者には積極的に陣頭に立って欲しい旨、依頼があった。

末吉庶務幹事より、年会関連企画および年会実行委員会の開催にもWebex近畿支部アカウントの利用が可能であることが説明された。

5-2-10. その他案内

末吉庶務幹事より、近畿支部で購入したCisco Webexアカウントの活用案について適宜提案して欲しいとの依頼があった。大塚実行委員長より、アカウントの詳細について質問があった。会議後にアカウントの詳細を確認した結果は下記の通りである。

- ・同時開催可能な会議室数: 1部屋/1アカウント, 主催者数: 1~50名, 最大参加者数: 150名
- ・会議時間: 最長24時間, 録画用クラウドストレージ: 5 GB, (クラウド録画時 暗号化可能)

5-2-11 「有功賞」候補者の推薦について

資料No. 16に基づき、末吉庶務幹事より有功賞候補の推薦を募集している旨が説明された。4月2日の支部内締切後、速やかに候補者を資料にまとめて4月9日の第2回常任幹事会ならびに第1回幹事会にて諮り、4月30日の本部提出締切までに推薦資料を作成する予定である旨説明された。なお、本来ならば「ぶんせき」誌1月号の会告に合わせて近畿支部内の募集を通知し、第1回常任幹事会にて確認すべき内容であった点、説明があった。

5-2-12 新年度以降の支部事業のあり方について

末吉庶務幹事より、支部事業に関する意見募集がなされた。

村松支部長より、そろそろアフターコロナに向けて動き出してもよいのではないか、ハイブリッド開催等に関してもどこかで実施したいという意向が示された。また、ぶんきんニュースなどに、今回のコロナ騒動のような緊急時の対処をアーカイブしておくことは優功ではないかとの意見が示された。